

JTB グループ労働組合連合会 第13回震災復興活動レポート

PTS 労働組合

中野 康孝

日時：2014年5月28日（水）～30日（金）

場所：福島県南相馬市

参加人数：23名

1. はじめに

連合会で実施の震災復興活動は今回で13・14回目を迎えますが、初めて参加しました。きっかけは、PTS 労組からはこれまで毎回複数の方が参加した経緯があり、参加した方からの声かけや活動報告などを聞き、何か役に立てることがないかという最後の一步を押し出してくれ、参加することにしました。

2. 活動内容（1日目）

前回同様に仙台に活動前日から宿泊し、6:15にホテルを出発後、南相馬ボランティアセンターに到着しました。私たちのような団体ボランティアの他、一般ボランティアの方もおり、一緒に初日の活動内容や活動にあたっての心得をセンター長よりお話いただきました。今回の作業地区であった南相馬市小高地区は日中のみ立ち入りが可能であり、夜間は入ることが未だできない地区であり、町には人がほとんどいない状態でした。家はあるのに人が住んでいないという風景は感慨深いものがあります。作業場所は私道（坂道）の復旧作業であり、竹藪や草が生い茂ったところを、器具を使いながら元に戻し、土のうで階段をつくり、ご年配の方でも上りやすい状態にする作業でした。現場到着後は、歩くだけでも大変な道であり、本当に歩ける道となるかという気持ちでした。汗だくになりながら、参加者全員で声をかけあい、それぞれが作業を分担して、1日目はなんとか歩ける状態になりました。作業にあたり必要な物は用意したつもりでしたが、実際に作業してみると軍手とゴム手袋しか持っていなく、革製の手袋の重要度を感じました。ボランティアセンターにも予備はありますが、事前の用意をお勧めします。

15:30頃に作業終了後、仙台に戻り懇親会をしました。日中は自己紹介もしない中、助け合いながら作業をしていたせいか、打ち解ける時間も早く話も盛り上がりました。

3. 活動内容（2日目）

2日目は1日目の続きであり、2時間程度でご年配の方でも歩きやすい道にするための作業をおこないました。1日目の作業の課題を踏まえて、効率の良い作業ができたのではない

かと思いました。皆で1つのものをつくりあげるという充実感があり、また1人の方のための私道だったかもしれませんが、この道が復旧したことで喜んでもらえる人がいるだけでやりがいがありました。

昼休憩後は、豚舎の解体作業をおこないました。まずは豚舎にある不要な瓦礫等を依頼者の方に聞きながら撤去しました。敷地も広いため、これを老夫婦が作業するのは大変だと思いながら、作業をしました。最後の解体作業は専門の業者が行いますが、その手前の状態まではでき、依頼者から感謝の言葉を頂いたときは感無量でした。2日間の作業が終わり、帰路途中の入浴施設で汗を流し、仙台を後にしました。

4. 最後に

震災から3年が経過していますが、最近では報道も少なくなり現地に行ってみないと分からないことがたくさんあり、ボランティアニーズも依然と多く、復興への道のりは長いと改めて感じました。活動前に南相馬のボランティアセンター長より、活動の意義を熱くお話いただき、私たちの行なっている組合活動にも繋がる何かを感じました。また、グループで働く仲間が1つのことを協力して行う貴重な経験でありました。復興支援活動は、誰しも何か助けになることはできないかという思いはあるが、きっかけがないと思います。この復興支援活動の参加者が感じたことを伝えることが必要であると思いました。



「竹やぶの伐採」 伐採した竹は、ウッドチップパーで粉碎する



(作業前)
草木で覆われた民家裏の小道



(作業後)
高齢の方でも歩きやすいように土嚢で
階段を作る



新兵器 130万円相当のウッドチッパー



作業後の集合写真